

パネルディスカッション 5

「学会認定・臨床輸血看護師の活動の現状と今後の展望」

藤 理沙（学会認定・臨床輸血看護師）

紀野：次は今日の話題の臨床輸血看護師さんであります、藤理沙さんに、学会認定・臨床輸血看護師の現在の活動状況や今後どうしたらいいかということについて、実際の生の声をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願ひします（スライド1）。

藤：まず始めに、このたび学会認定・臨床輸血看護師を次回の診療報酬の輸血管理料に組み込むために、このような討論会を開催していただきましたことを、心から感謝いたします。ありがとうございます。本来であれば本学会理事でもあります神鋼記念病院の松本真弓先生の出席が望ましいのかもしれませんが、ただいま同時刻、看護師ブラッシュアップセミナーに登壇を控えておりますので、代役になるのかもしれませんが、務めさせていただきます。今日は臨床現場の看護師として現状をお伝えし、今後の臨床輸血看護師制度の活動に役立てればと思ひ、参加させていただきました。どうぞ本日は宜しくお願ひいたします。

まず始めに我々、臨床輸血看護師は、資格取得に至った経緯にもよりますが、概ねの志望動機は日々行っている輸血業務について正確な知識や実践力を身に付けたいと思ひから始まり、自分のスキルアップのために臨んでいる場合が多いです（スライド2）。ですから、病院勤務であれば、輸血療法が行われることの多い血液内科病棟、産科や外科病棟、手術部、救急部、また、入院期間の短縮化による化学療法や輸血療法、自己血採取の機会の多い外来部門、それらに属することが多いです。また、資格を取得してからは、輸血部や検査部への異動も少なくはありません。資格を取得したことで、それら所属する部署でのスタッフ教育が始まります。こうして院内での活動が始まり、院内の輸血管理体制の整備に関わっていくようになり、先ほどの話にもありました院内輸血療法委員会への参加が始まります（スライド3）。当院では臨床輸血看護師は3名在籍しており、3名とも参加させていただいております。また、看護部内に輸血委員会が新たに設置されます。それらの活動を通じて院内の輸血療法マニュアルの整備に深く関わるようになります。また、所属する部署に限らず、院内全体の看護師の輸血教育も担うようになります。卒後教育の一環として、新採用看護師への集団教育や指導、そして院内全体の看護師スタッフに向けての学習会の開催は数多くの施設で実施されています（スライド4）。

また、最近ではPBM、患者中心の輸血医療という考えに基づきまして患者指導マニュアルやパンフレットの作成なども行っております。輸血療法の現場では、看護師が最も患者の傍にすることが多く、その重責を担っています。その看護師たちが正しい知識を持って不安や戸惑いのない状態で、輸血の準備、確認、輸血実施中の患者さんの観察や副作用の早期発見などの輸血療法を安全かつ確実に行えるような教育が重要になってきます（スライド4、5）。

続きまして、活動は院外へと広がって行きます（スライド6、7）。それには本学会への参加、発表があります。これまでに看護師シンポジウムやブラッシュアップセミナーなどが開催され、臨床輸血看護師が発表する場を設けていただいております。地方の例会では、こうした臨床輸血看護師の活動の現状やこれから望まれることなどを発表する場面が増えております。また新たに各都道府県の合同輸血療法委員会で看護部会やワーキンググループが設立されるなど、活発な活動が最近では行われております。そして本学会での活動では、理事を務める松本真弓さんをはじめ、私も学術支援委員として委員会に所属するなど、各種委員会に所属し、看護師の立場より活動をさせていただいております。また現在全国で93カ所あります、学会認定・臨床輸血看護師制度の研修施設として研修の担当もさせていただいております。

しかしながら、このような活動は、ごく一部の臨床輸血看護師に限られているのかもしれませんが、この春で、臨床輸血看護師は925名となりましたが、皆が同じように活動しているわけではありません（スライド8）。私と同じように第1回目に資格を取得した者が全員、資格の更新をしていないとお聞きしております。他部署へ移動になった者、退職した者、理由は様々であろうと思ひますが、資格を取得しても、臨床輸血看護師としての活動方法がわからず悩んだりもします。また臨床輸血看護師が、院内で最低年6回は開催されているであろう輸血療法委員会へ参加しているとは限りません。そのような場で、臨床輸血看護師として、現場の意見が述べるのであれば、輸血医療を行うチームメンバーとして力を発揮できるのではないのでしょうか。

以前、お伺いいたしました 大戸先生の構想にありますような、経験を積んだ臨床輸血看護師が、新たな臨床輸血看護師を育成する場面は少ないのも現状です。学会でのブラッシュアップセミナーなどは、その良き機会となっておりますが、通常の業務に従事しながらセミナーへ参加するのは難しい現状もあります。ですから、この春に開

催されました第64回総会での「看護師ワークショップ」が記録集として、全国の会員へ送り届けられたことは大変有難く、総会への参加が叶わなかった看護師たちが学習できる良き機会となりました（スライド9）。この場を借りて、お礼申し上げます。

輸血の認定看護師制度が診療報酬に加算していただくことは大変光栄なことです。輸血医療に携わる医療者の目的は、安全で適正な輸血医療を遂行することにあります。そして臨床輸血看護師の役割は、患者の安全を守り、輸血看護の質を高めることです。

しかしながら、その看護の質は問われることはないのでしょうか。これまで臨床輸血看護師活動の現状をお話しして参りましたが、共通の臨床輸血看護師の活動項目はなく、働き方は個人や施設によって様々です。また、臨床輸血看護師制度の資格を有する者の偏りがあるのも事実です（スライド10）。この5年でようやく各都道府県に取得者が誕生しました。この資格をご存知な医師や検査技師のいる施設では望まれますが、ある一定の施設に多数の臨床輸血看護師が在籍している場合もあり、輸血管理料Ⅰの算定が見込める大学病院のような大規模な病院全てに臨床輸血看護師が在籍していない現状もあります。また教育体制の場面では、学生の頃に輸血医療について学ぶカリキュラムは僅かであり、多数の講義を受ける中で、印象に残るのは難しいようにも思います。そのゆえ就職してからの新採用教育をする場面で、輸血看護について講義をする我々臨床輸血看護師の存在は、とても有意義であると思います。

最後に輸血医療に携わる医療者の目的は、安全で適正な輸血医療を遂行することにあります。医師や検査技師、他の職種と連携しながら、輸血を必要とする患者さんにとって、より良い輸血医療を提供できるように活動していたらと常日頃より思います。輸血はチーム医療です。その要に臨床輸血看護師の存在が不可欠であると思います（スライド11）。これまで先に行われてきた安全な輸血医療にベッドサイドで活動する私たちが加わることで、患者のニーズに応えた、より良い患者中心の輸血医療を展開できると、この場で宣言させていただきたいと思います。この度の学会認定・臨床輸血看護師制度が診療報酬に加算していただくための討論会をきっかけに、これから少子高齢化社会の日本の医療において、病院のみならず在宅医療、そして在宅輸血も視野に考えながら、我々臨床輸血看護師の活動の場を様々な角度から見ていただけたらと思います。以上で終わります。（拍手）

紀野：藤さん、どうもありがとうございました。

スライド 1

第23回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム
診療報酬討論会

学会認定・臨床輸血看護師の
活動の現状と
今後の展望

学会認定・臨床輸血看護師
北楡会 札幌北楡病院 看護部
藤 理沙

スライド 2

学会認定・臨床輸血看護師の活動の現状

血液内科病棟

産科病棟

輸血部検査部

手術部

外来

救急部

スライド 3

学会認定・臨床輸血看護師の活動効果

○院内活動

～輸血管理体制整備への関わり～

- ・院内輸血療法委員会への参加
- ・看護部輸血委員会の設立
- ・院内輸血療法マニュアルの整備

スライド 4

学会認定・臨床輸血看護師の活動効果

○院内活動

～看護師の輸血教育～

- ・新採用看護師への教育・指導
- ・看護師スタッフへ向けて学習会の開催
- ・患者指導のマニュアル・パンフレット作製

スライド 5

学会認定・臨床輸血看護師の活動効果

○院内活動

～看護師の輸血教育～

輸血準備・確認・輸血実施中の
患者の観察や副作用の早期発見などの
輸血療法を安全かつ確実に行えるような教育

スライド 6

学会認定・臨床輸血看護師の活動効果


○院外活動

- ・日本輸血細胞治療学会
総会・秋季シンポジウムへの参加・発表
- ・日本輸血細胞治療学会支部例会への参加・発表
- ・各都道府県の合同輸血療法委員会への参加
看護部会やワーキンググループ設立

スライド7

学会認定・臨床輸血看護師の活動効果

- 日本輸血細胞治療学会での活動
 - ・理事や委員として学会運営へ参画
 - ・学会認定臨床輸血看護師制度試験施設研修を担当



スライド8


学会認定・臨床輸血看護師の活動の現状

- 臨床輸血看護師が資格を生かして活動できていない現状
 - ・所属する部署の異動、退職
 - ・認定看護師としての活動方法がわからない
 - ・資格取得後、スキルアップを図る機会が少ない
 - ・通常の業務があり、総会やセミナーの参加が難しい

スライド9

学会認定・臨床輸血看護師の活動の現状

第64回日本輸血細胞治療学会総会・記録集
『看護師ワークショップ』



スライド10

学会認定・臨床輸血看護師の活動の現状

- ・共通の輸血看護師の活動項目はなく、働き方は個人や施設によって様々である
- ・各都道府県や施設によって認定取得者に偏りがある

スライド11

チームとしての輸血医療

